

NHK 放送

目撃！にっぽん

「“空師” ～吉野の山に生かされて～」

令和2年(2020)12月6日放送

目撃！にっぽん

「“空師”（そらし） ～吉野の山に生かされて～」

NHK ホームページから

そびえ立つ木に登り伐採する「空師」。ロープを巧みに操りさまざまな体勢でチェーンソーを扱う職人だ。奈良県吉野地方の空師・中平武さんに密着。山奥に眠る巨木に挑む。



日本屈指の林業の地、奈良吉野で一目置かれる空師・中平武さん43歳。そびえ立つ木に登り伐採する職人だ。技術を極めることで廃れゆく林業を活性化したいと空師を志した中平さん、この秋挑んだのは空師の技を用いなければ切ることのできない山奥の樹齢200年を越える巨大なとちの木。共に伐採に立ち向かったのは背中を追い続けてきた父。予想もしない試練の連続。知られざる大和の空師の物語。

【番組を企画したきっかけは】番組ディレクターから

以前、別の番組で取材をさせていただいたことがきっかけでした。ひとつの木を植えてから、商品として切りだすまでにかかる時間は100年以上。自分の代だけでなく、自分の前の世代、そして後の世代にも思いをはせながら仕事をする、林業ならではの仕事観に感銘を受け、より深く取材したいと思っていました。そんな折に、中平さんからお聞きしたのが、「空師」の仕事の話。地上での伐採でも大迫力なのに、木の上での伐採はいったいどんなものなのか。再びの取材をお願いし、番組の企画に至りました。

【取材で印象に残った言葉】番組ディレクターから

「俺らは吉野の歴史の中のほんの一部分やから」、その言葉が深く印象に残りました。これまでの人生で自分の人生と何かの歴史が紐付いていると感じたことは全くなかったのが、木や山を通してその土地の歴史の一部分に自分がいるという感覚をもつ中平さんたちの生き方に非常に心惹かれるものがありました。普段生活していると、自分のことでいっぱいになってしまうのですが、もっと大きなものに目を向けたら（それが自分にとって何なのかはまだ分かりませんが）違う世界が見えるのかもしれないと考えさせられました。



No32 吉野杉間伐之光景
写真提供：成瀬匡章氏



No37 吉野木材搬出の光景（キンマ）
写真提供：成瀬匡章氏